【高野紙製作】
中坊君子

【現 住 所】九度山町
【生　　年】明治40年

職　　歴

幼少の頃、当時下古沢の農家で副業として盛んに行なわれていた高野紙の紙漉きを手伝っていたが、本格的には12才頃から始め、以来60余年間今もなお営々と高野紙の製作に従事している。

業績の概要

高野紙はその地名をとって古沢紙ともよばれ、素朴でねばり強い紙質で、主として傘紙や障子紙又上質のものは古くから高野山の経文の書写用などに用いられてきた。

昭和の初期には90軒にもおよぶ紙漉き農家があったが、現在では高野紙伝統の技術は中坊家母娘ただ一軒に受けつがれているのみとなり、一冬に数千枚を生産している。

高野紙製作には各種の工程があるが、中でも、漉き桶の中の原液を木枠で漉く際、均質に厚さを整え、上質の紙を製作するには、経験に裏うちされた微妙な技術が必要である。